

ディケンズ・フェロウシップ日本支部

Japan Branch of the Dickens Fellowship

平成24年度秋季総会 プログラム

Annual General Meeting 2012 — Programme

(ディケンズ生誕200年記念)

In Commemoration of the Bicentenary of Dickens's Birth

日時：2012年10月20日（土） Date: 20 October 2012

会場：天理大学 杣之内キャンパス（奈良県天理市杣之内町）

Venue: Somanouchi Campus, Tenri University, Nara

理事会 Board of Trustees Meeting (12:00 – 12:40)

講師控え室（2号棟 22B講義室の横）

総 会 Annual General Meeting (13:00 – 13:40)

2号棟 22B講義室 (Lecture Room 22B, Hall No. 2)

シンポジウム Symposium (13:50 – 15:50)

「ディケンズ伝のいま：二百年目の視点」

New Dickens Biographies: Bicentenary Points of View

司会・講師：加藤 匠（明治大学・兼任講師） Takumi Kato (Meiji University)

講師：渡部智也（大谷大学・助教） Tomoya Watanabe (Otani University)

講師：猪熊恵子（東京医科歯科大学・准教授） Keiko Inokuma (Tokyo Medical and Dental University)

生誕200年記念鼎談 A Bicentenary Trialogue (16:10 – 17:30)

「私のディケンズ——1970年以降のディケンズ再評価の流れの中で」

Personal Histories, Experiences and Observations on Dickens after 1970

司 会：原 英一（東京女子大学・教授） Eiichi Hara (Tokyo Woman's Christian University)

講師：植木研介（広島大学・名誉教授） Kensuke Ueki (Hiroshima University)

講師：西條隆雄（元・日本支部長） Takao Saijo (JDF Ex-President)

講師：松村昌家（大手前大学・名誉教授） Masaie Matsumura (Otemae University)

懇親会 (18:00 – 20:00)

Evening Party

会場：ウェルカム・ハウス・コトブキ（天理駅前）

会費：一般6,000円、学生3,000円。

※ 大学の近所には食堂等はありません。昼食は駅の近所で食べてください。

※ 会場には飲み物の用意も、ゴミ箱の設置もありません。飲み物等は（必要なら）各自が持参のうえ、空き瓶は持ち帰るなり、各自の責任で始末してください。

シンポジウム

「ディケンズ伝のいま：二百年目の視点」

司会・講師：加藤 匠（明治大学・兼任講師）

「『国民劇場、チャールズ・ディケンズ』——サイモン・キャロウのディケンズ伝を読む」

ディケンズ生誕二百年を祝う人々の声を象徴するかのように、彼を主題とする多くの本が出版されている。私が取り上げるのは、ディケンズが終生魅せられた舞台芸術の観点から彼を捉えようとしたサイモン・キャロウによる *Charles Dickens and the Great Theatre of the World* (2012) である。ディケンズがかつて俳優を志し、その後も文士劇や公開朗読会に精力的に、そして心身ともに限界を超えるまで取り組んだのは広く知られているが、批評家たちはこうした活動をそれほど重視してこなかったように思える。十五年近くにわたり、様々な場面でディケンズを演じ続けた名優キャロウは、様々な文化や歴史を映し出す舞台とディケンズとのかかわりをどう位置づけているのだろうか。

講師：渡部智也（大谷大学・助教）

「The Visible Man——クレア・トマリンのディケンズ伝について」

2009 年 9 月、マイケル・スレイターによる新しいディケンズ伝刊行記念パーティーにおいて、乾杯の挨拶に立ったジョン・ケアリーは、スレイターの伝記を、「ディケンズの凄まじいエネルギー、ダイナミズムをよく表した素晴らしい伝記」と評した。ディケンズがエネルギーに満ちた偉大な作家であることは疑いようがなく、彼のこのエネルギーを表現することは、彼を表現することに等しいと言ってよい。そのため、これをいかに表現するかは、ディケンズ伝を書くものにとって重要な問題となってきた。本発表では、2011 年に出版されたクレア・トマリンの伝記が、このディケンズ伝執筆者の抱える課題に対してどのような解答を提示したかを考察したい。

講師：猪熊恵子（東京医科歯科大学・准教授）

「『伝記』の始まりと終わり——ダグラス・フェアハーストのディケンズ伝を読む」

フォースターから始まる数々の伝記によって、すでに語り尽くされ、読み尽くされたかに思えるディケンズの人生物語は、それでも新たに語り直され続ける。知っているはずの物語をなおも〈買いつのる〉読者は一体何を読みたいのだろう。そしてディケンズの人生について画期的な新発見があるわけでもない書き手は（今さら）何を〈言いつのる〉ことができるのだろう。本発表ではこの問題点から出発し、独自の語り口と切り口で、若き日のディケンズのみならず焦点を合わせる Robert Douglas-Fairhurst の *Becoming Dickens* (2011) を取り上げ、「伝記」を書くこと／読むことをめぐる、書き手と読み手それぞれの思惑や願望について考えてみたい。

生誕 200 年記念鼎談

「私のディケンズ——1970 年以降のディケンズ再評価の流れの中で」

司会：原 英一（東京女子大学・教授）

講師：植木研介（広島大学・名誉教授）

西條隆雄（元・日本支部長）

松村昌家（大手前大学・名誉教授）

1970 年、ディケンズ没後 100 年の記念の年——それは今から振り返ってみると、1950 年代末から始まった再評価の第一段階が完了し、押しも押されもしないメジャーな作家として認識されたディケンズの研究が新たな段階に入った時期であった。ディケンズ、その周辺の作家たち、さらにヴィクトリア朝文化のさまざまな側面について、実に多種多様なアプローチが試みられるようになった。一方、当時もてはやされていた構造主義や神話批評を押しつけて、批評理論が台頭して、文学批評を席卷していく時代の始まりでもあった。今回の鼎談に集まった 3 名の方々はこの新たな潮流の中で、いずれも独自の確固とした立場を堅持し、着実なディケンズ・ヴィクトリア朝研究を進めてこられた。生誕 200 年を迎えて、それぞれ

についての「ディケンズ」が何であったのか、あらためて語っていただき、今後のディケンズ研究の可能性を探ってみたい。

というのは実は建前である。個性豊かなメンバーに、鼎談という自由な形で、脱線もやり放題に、自由に語ってもらいたい。その方が刺激的で面白いものになるだろうと期待している。われわれディケンズアンは、多かれ少なかれ、この作家の奔放さに通じるものを持っているはずなのだから。

交通アクセス



＜大阪・難波から＞（所要約 60 分）
近鉄奈良線「大阪難波」駅より奈良行（快速急行・急行）に乗車約 35 分、「大和西大寺」駅で下車。天理行に乗車約 20 分、「天理」駅で下車。「大和西大寺」駅より橿原神宮前行に乗車の場合は、「平端」駅で天理行に乗り換え。

＜京都から＞（所要約 60 分）
近鉄京都線「京都」駅より天理行（急行）に乗車約 60 分、「天理」駅で下車。「京都」駅より橿原神宮前行（急行）に乗車の場合は、「平端」駅で天理行に乗り換え。

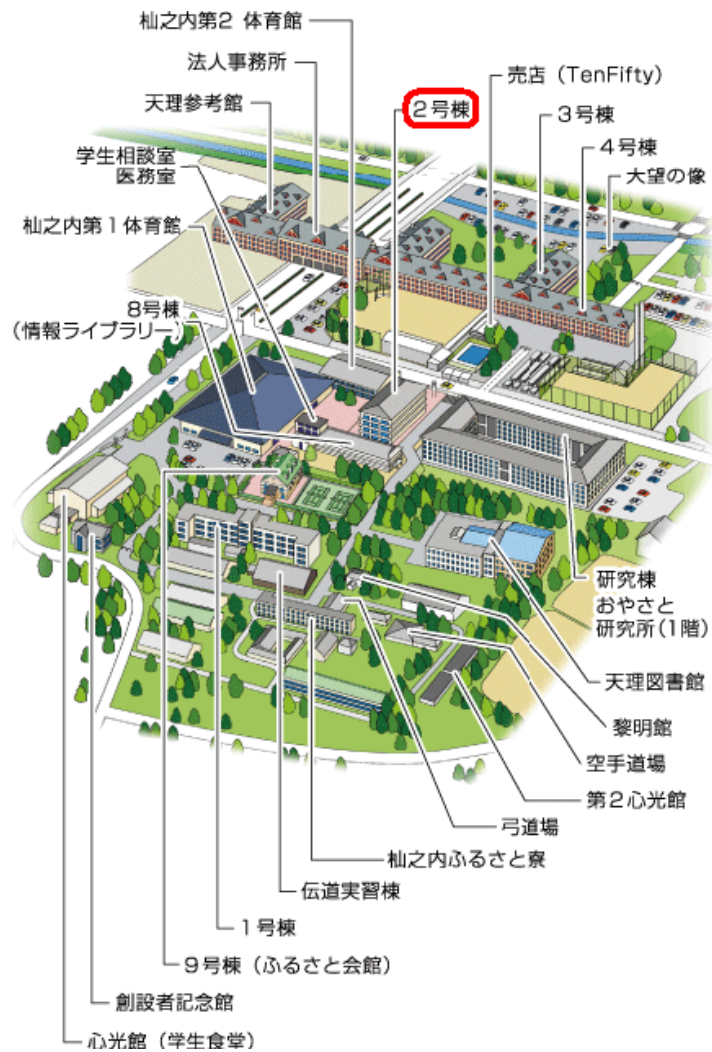
大学へのアクセス〈天理駅から〉

杣之内キャンパスへは

- ・通学バス（天理大学行）で約 8 分
- ・徒歩の場合 東へ約 20 分



キャンパス・マップ



懇親会会場

ウェルカム・ハウス・コトブキ（J R天理駅前）



開館 82 周年記念展

ベストセラー作家誕生

ディケンズ初版本の世界

ディケンズ生誕二百年を記念して



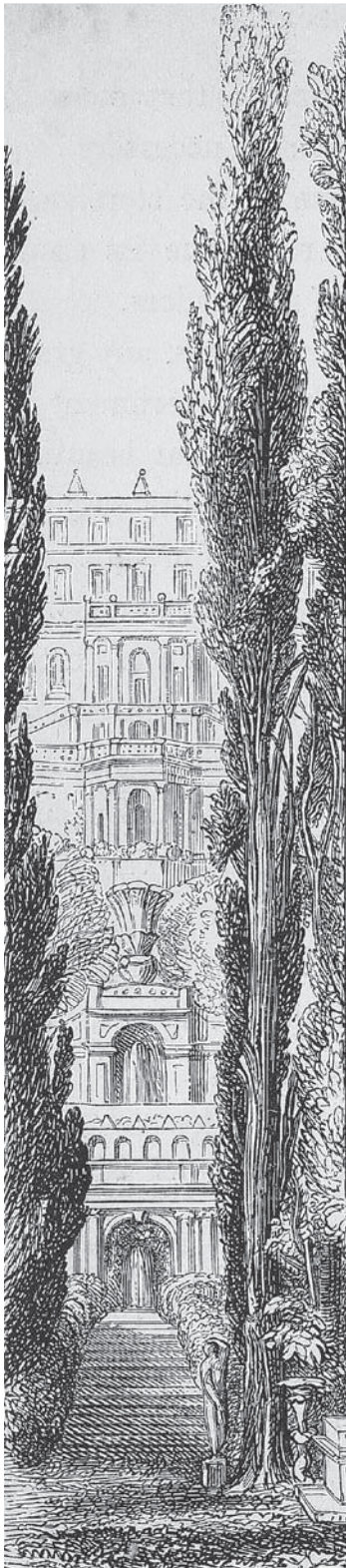
天理図書館

開館 82 周年記念展

ベストセラー作家誕生

ーディケンズ初版本の世界ー

『オリヴァー・トゥイスト』、『クリスマス・キャロル』、『二都物語』をはじめ、数多くの小説で知られるイギリスの大作家チャールズ・ディケンズは、1812年2月7日、ポーツマス近郊に生まれました。本年（2012年）は、生誕200年の記念すべき年にあたります。本館は、ディケンズの作品を、その初版本を中心に数多く収集してきて、日本国内では有数のコレクションを形成いたしております。ディケンズは、月刊分冊という出版形式によって、各冊が数万部という出版部数を誇るベストセラー作家になりました。また、ディケンズの作品は、文章だけでなく、クルックシャンク、シーモア、フィズことハブロー・ブラウンといった当時の人気挿絵画家とのコラボによって、視覚的にも楽しい読み物となっています。ディケンズ生誕200年という格好の機会に、彼の作品群を一堂に展覧に供したいと存じます。ディケンズが生き生きと描いた、19世紀イギリスの大衆社会の雰囲気を感じ取っていただければ幸いです。



出品リスト

- 1 『ボズのスケッチ集』 1836-37 年
- 2 『ピクウィック・クラブ』 1836-37 年
- 3 『オリヴァー・トゥイスト』 1837-39 年
- 4 『ジョウゼフ・グリマルディ回想録』 1838 年
- 5 『ニコラス・ニクルビー』 1838-39 年
- 6 『骨董屋』 1840-41 年
- 7 『バーナビー・ラッジ』 1841 年
- 8 『アメリカ紀行』 1842 年
- 9 『マーティン・チャズルウィット』 1843-44 年
- 10 『クリスマス・キャロル』 1843 年
- 11 『イタリア紀行』 1846 年
- 12 『ドンビー父子』 1846-48 年
- 13 『デイヴィッド・コパフィールド』 1849-50 年
- 14 『荒涼館』 1852-53 年
- 15 『ハード・タイムズ』 1854 年
- 16 『リトル・ドリット』 1855-57 年
- 17 『二都物語』 1859 年
- 18 『大いなる遺産』 1861 年
- 19 『無商旅人』 1861 年
- 20 『互いの友』 1864-65 年
- 21 『ドクター・マリゴールドの処方箋』 1865 年
- 22 『信号手』 1866 年
- 23 『ジョージ・シルヴァーマンの弁明』 1868 年
- 24 『エドウィン・ドルードの謎』 1870 年

2012 年 10/19(金)～11/4(日)

9 時 00 分～15 時 30 分 会期中無休・入場無料

天理図書館 〒632-8577 天理市杣之内町 1050 TEL:0743-63-9200

<http://www.tcl.gr.jp> JR・近鉄天理駅より徒歩 25 分 / 名阪国道天理東 I.C. 南へ約 10 分

